

理論研究

欧州で開発された Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) の、日本の英語学習者への適応可能性を検討した「日本版 CEFR」の開発経緯を報告し課題を論ずる。

❶	CEFR-J 開発の経緯	38
---	--------------------	----

東京外国語大学 根岸雅史

CEFR-J 開発の経緯

The Development Process of the CEFR-J

根岸雅史

Masashi NEGISHI

東京外国語大学

Tokyo University of Foreign Studies

Abstract

The Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) has made a great impact on learning, teaching, and assessment not only in Europe but also beyond Europe. Although this framework has been shown to be compatible with English language teaching in Japan in many respects, it seems that the CEFR needs some modifications. The present paper is to report the development process of the CEFR-J, which is a modified version of the original CEFR to the Japanese context. This development consists of three stages. In the beginning, we collected descriptors available in Japan along with those found in the CEFR and in the European Language Portfolio (ELP). Then we came up with the first draft of the CEFR-J. We broke down each descriptor into three categories, and checked their consistency and levels. In the second stage, we reassembled the broken descriptors into one descriptor. In this stage, we changed a number of wordings. At the final stage, the author translated all the descriptors into English, and got feedback from CEFR specialists. The CEFR-J beta version is shown in the Appendix.

Keywords

CEFR, CEFR-J, ELP

1. CEFR の普遍性と日本版作成の必要性

Common European Framework of Reference for Languages (CEFR)は、欧州における言語の学習・指導・評価のための共通の枠組みとして開発された。今日では、この枠組みに基づく教材や外国語学習プログラム、また、このレベルに関連づけられた様々な外国語テストなどが着々と開発されている。この影響力は、欧州にとどまらず、世界にも広がりがつつあると言っていいだろう。

この枠組みの日本の英語教育における適用可能性を検証したものとしては、Negishi (2006)や根岸(2006)などがある。Negishi(2006)は、自己評価アンケート・データの分析に基づき、CEFRは概ね日本の英語学習者に適用可能であるが、同時にいくつかの descriptors は修正が必要だとしている。そこで、根岸(2006)は、問題のあった descriptors に具体例を入れ、これによりほとんどの項目で改善が図られたと報告している。

しかしながら、この枠組みで考えたときの、日本人の英語学習者のレベルは大半は A レベルであり、C レベルはごくわずかであることが様々なデータからわかってきている(根岸他, 2010)。このことを考えると、ほとんどの日本人英語学習者にとっては、現状の CEFR では下の4段階だけが意味のあるものであり、現実的には使い勝手があまりよくない。そこで、このあたりのレベルをさらに細かく分けていく必要があるだろう。

小池科研(基盤研究(A)(2004-2007)(小池生夫代表)「第二言語習得研究を基盤とする小,中,高,大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究」(研究課題番号:16202010))では、日本の英語教育の文脈に適した CEFR(これを CEFR-J と命名)を作るということになったわけであるが、現在ではこの枠組み作りは投野科研(基盤研究(A)(2008-2010)(投野由紀夫代表)「小,中,高,大の一貫する英語コミュニケーション能力の到達基準の策定とその検証」(研究課題番号:20242011))に引き継がれている。本稿では、この投野科研において CEFR-J がどのように作られてきたかを報告し、そこから見えてくる課題についても論じることとする。

2. CEFR-J 作成のプロセス

2.1 第1ステージ

まず、2010年1月に、それまでに作成された CEFR-J の descriptors をすべて集約し、投野科研のメンバー全員に配布した。なお、このときに配布したものは、投野科研の前身である小池科研で作成された CEFR-J を、その後 GTEC for STUDENTS や英検、SELHi 校などの can-do statements を参考に、日本の英語教育の実態に合わせて、加筆修正したものである。これらの descriptors を技能別(Listening, Reading, Spoken Production, Writing)に、グループで検討した。なお、この時点での技能に Spoken Interaction が入っていないのは、こちらは2009年の夏に Bedfordshire 大学の Tony Green 博士の助言をもとにした書き直しが既に進められていたためである。しかしながら、各メンバーの書き直し案の集約の結果、この時点での descriptors はかなり異なった種類のものから成っていることがわかった。

そこで、Green 博士の descriptors 書き直しの観点に沿って、descriptors の分解、整理をおこなった。それらの観点は、発表技能(Spoken Production, Writing)用としては、(1) task (performance), (2) content (condition), (3) quality(criteria), 受容技能(Listening, Reading)としては、(1) task, (2) condition, (3) text である。Green 博士が2009年のワークショップで示したのは、発表技能用の観点であったが、受容技能においては、学習者が産出する言語の質に差があるわけではないので、この部分は text とすることにした。「聞くこと」B2.2の descriptor の分解の実例を以下に示す。なお、受容技能のタスクは主に「理解の程度」を表す。こうして一覧表を作成し、その中の欠けている観点をまず追加した。

text	condition	task
母語話者同士の多様な会話の流れ(テレビ, 映画など)	非母語話者への配慮としての言語的な調整がなされていない	ついていくことができる。

次に、技能ごとに、CEFR および ELP (European Language Portfolio) のファイルを検索し、関連する descriptors をチェックした。なお、この作業に当たっては、CEFR は pdf 版を用いて、検索作業を行い、ELP はすべての descriptors をエクセルファイルに技能ごとに集約したものをを用いた。ただし、ELP は認証された (accredited) もので、その多くは私たちがこれから行うような妥当性の検証がなされた (validated) ものでは必ずしもないという認識のもとで行った。この作業の中で不整合のあった descriptors の文言を修正し、その後各 descriptor の上下のレベルの descriptors を見ることで、レベルの確認や文言の修正を行った。

2.2 第2ステージ

次のステージでは、分解した descriptors を合体して descriptors の一覧表を作成し、この表をもとにさらなる検討・修正作業を行った。検討・修正のポイントは以下の通りである。

- ・ Cレベルの学習者はグローバルな文脈での英語使用が期待されるため、Cレベルの descriptors は CEFR の Common Reference Levels: self-assessment grid の descriptors はそのまま採用することとした。したがって、一部日本独自の記述がなされていた部分は、もとに戻した。なお、CEFR-J は日本語による descriptors を作成するが、その際に吉島他(2004)の訳は参考にしたが、原文の意図をより忠実に表すために、部分的に修正した。以下に、主な例を挙げる。

Spoken Production 「表現」→「発表」

「やりとり」C1 with precision 「精確に」→「正確に」

「やりとり」C2 precisely 「詳細に」→「正確に」

「発表」C2 clear, smoothly flowing 「はっきりとすらすらと流暢に」→「はっきりと流暢に」

「書くこと」C1 at some length 「適当な長さで」→「かなり詳細に」

「書くこと」C1 can write 「扱うことができる」→「書くことができる」

「書くこと」C2 complex letters 「複雑な内容の手紙」→「複雑な手紙」

- ・ CEFR-J のすべての descriptors を ELP の全 descriptors にあたり、ELP に類似したものがあるものは黄色い枠で示し、ELP に類似したものがない日本独自のものは白枠とし、区別した(ただし、類似性の判断は筆者の主観的判断)。日本独自の descriptors の一例としては、「読むこと」の B1.2の「学業や仕事に関係ある情報を、インターネットや参考図書などで調べて、必要であれば辞書を用いて、文章の構成を意識して読むことができる。図表があれば、それと関連づけながら読むことができる。」というようなものがある。全体に見れば、CEFR-J の descriptors のほうが、ELP のものよりも、記述が詳細で、厚みがあると言える。
- ・ 「書くこと」の descriptors では、テキストタイプへの言及を後ろに移動し、日本語としてなじむようにした。

	B1.1
書くこと	作業の手順や説明をするような文章を、身近な状況で使われる語彙・文法を用いれば、筋道を立てて情報を伝える文章を書くことができる。



	B1.1
書くこと	身近な状況で使われる語彙・文法を用いれば、筋道を立てて、作業の手順などを示す説明文を書くことができる。

- ・部分的に英語の表現例が入っているものがあつたが、CEFRのCommon Reference Levels: self-assessment gridにならぬ、削除した。ただし、アンケート調査の時には必要になる可能性があるため、英語の例を入れたものを別ファイルとして保存した。
- ・「やりとり」Pre-A1「自分の意志をことばを使わずに」とあつたが、これが入ると言語能力の枠組みにならなくなるため、削除した。
- ・「発表」の下位のレベルに、一貫して「相手の力を借りながら」とあつたが、「発表」において「相手の力を借りる」というのがわかりにくいと判断し、削除した。また、同じく「発表」に「不慣れでない相手に対して」とあつたが、「発表」においては相手が誰であるかは、大きな影響を与えるものではないと判断し、これも削除した。
- ・「書くこと」Pre-A1「活字体(英語の教科書に使われている文字)」とあつたが、「ブロック体」とした。
- ・他にも細々した誤植なども修正した。また、日本語としての自然さおよび全体としての統一感を出すために若干の修正を行った。

このステージの最終版を私たちはCEFR-J α版と呼んで、投野科研3年目における最初の検証作業である教員による descriptors の難易度判断に用いることとした。

2.3 第3ステージ

このステージでは、まず筆者がCEFR-Jの descriptors をCEFRのCommon Reference Levels: self-assessment gridと同様の表となるように並べ替えた。この表においては、各 descriptor の上下左右を見ることで、レベルごとの統一感や各技能における記述の一貫性などをチェックし、問題のある文言を修正した。

次に、筆者がこの英訳を行った。これは日本語で書かれたCEFR-Jを海外の研究者に見てもらい、フィードバックを得るためである。この英訳作業は、英語版のCEFRやELPの英語の descriptors を参考にしながら行った。この過程で明らかになったことは、CEFRの descriptors にはかなり厳格なコロケーションが適用されているということだ。この時点でのCEFR-Jは、この点かなり自由に記述されており、同じような内容を表していると考えられるものであっても、異なった記述がなされている箇所が散見された。これに対して、ELPはそれぞれの文脈で個別に作られているため、記述は多様で、初等・中等学校の学習者向けの平易な言葉で書かれていることがわかる。英訳に際し、descriptors の開発担当者が違うために異なった用語が用いられているが、基本的に同じことを表すと考えられるものは、表現を統一するように心がけた。

2010年8月4日に来日中の Green 博士からコメントをもらい、さらに修正を行った。なお、この日は終日会合を持ったが、110個の descriptors のうちおよそ半数しか終わらなかったため、残りのものに関しては筆者が単独で Green 博士に提起された視点をもとに書き直しを行い、ネイティブ・チェックを行ったあと、再度 Green 博士に送り、最終的なチェックを受けた。ここでの、具体的な修正点は以下の通り。

【聞くこと】

- ・ B1.1 「(旅行の日程など)一般的なメッセージの要点」は「(学校の宿題, 旅行の日程など)明確に事実を伝えるメッセージの要点」とする。
- ・ B2.2 「社会的な話題」は **topics of current common interest** とする。

【読むこと】

- ・ 何箇所かに渡り、「…を読んで、理解する」という文言があるが、ここは「読むこと」なので、「…を読んで、」の部分削除し、「を理解する」とする。
- ・ Pre-A1 「絵本などに書かれた、音声で慣れ親しんだ単語を、教師のサポートがあれば理解することができる。」は、「口頭活動で既に慣れ親しんだ絵本の中の単語を理解して、絵の中でそれを指すことができる。」とした。理由は、「音声で慣れ親しんだ単語」の部分曖昧であるため、また、「教師のサポート」があつて理解するという部分が **can-do descriptor** には馴染まないため。さらに、理解を示すタスクとして、「絵の中でそれを指すことができる」とした。
- ・ A1.1 日本語の「店の看板・ポスター・標識」は、英語では **signs and posters** とする。
- ・ A1.2 「ファーストフード・レストラン」に「よく利用する」とあつたが、これを削除した。「よく利用」しているファーストフード・レストランである必要はなく、むしろよく利用していることでメニューを読まずに理解できてしまう可能性がある。
- ・ A1.3とA2.1に出ている「学習目的に書かれた」は削除する。理由は、「平易な英語で書かれた」という条件が、これをほぼ内包すると考えられるため。ただし、B1.1の「学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事を読んで、重要点を理解することができる。」では、テキストの特性を規定する条件はこれだけなので、残す。
- ・ A2.1 「生活」life を「日常生活」everyday life とした。
- ・ B1.2 「自分にはあまりなじみのない内容の物語文でも、語注や辞書を用いれば物語の筋を理解することができる。」については、「自分にはあまりなじみのない内容の物語文」という部分が曖昧であるとして、問題となった。これは、読んで初めて内容を知ることが前提となっているためである。そこで、内容のなじみの度合いについての言及を避け、「平易な英語で書かれた物語文を、語注や辞書を用いれば物語の筋を理解することができる。」とした。
- ・ B2.1 「報告書・仕様書・操作マニュアルなど自分の専門に関連した分野の説明」は「自分の専門に関連した分野の報告書・仕様書・操作マニュアルなど」とした。理由は、「仕様書・操作マニュアル」などは、自分の専門に関連した分野とは限らないため。
- ・ B2.2 「独力で」は削除する。基本的に **CEFR-J** の **can-do statements** は独力でやることを前提としており、ここだけことさら言及する必要がないため。

- B2.2 「その重要度を判断することができる」は「文章の重要度を判断することができる」とする。理由は、「記事やレポートなどのやや複雑な文章を一読し」て、複数のテキストのうち、どのテキストが重要かを判断するのではなく、それぞれのテキストのどこの文章が重要かを見つけて、その重要性を判断するとするため。

【やりとり】

- Pre-A1, A1.1, A1.2に出ていた「身近な相手とのやりとりにおいて」*in the interaction with close acquaintances* は削除する。【やりとり】の自己評価としては、やりとりの相手に関する記述は不要で、条件としては他の部分に内包されていると考えられるため。
- A1.2 「短く基本的な事実」は「なじみのある話題」とする。「短い…事実」という日本語は、実態としてもコロケーションとしても成立しないため、他の類似表現で置き換える。
- A1.3 「2つ以上の句を用いて」は「限られた範囲の表現を用いて」とする。「自分の知っている相手がゆっくりと話し、繰り返し、言い換えてくれれば」は「自分の知っている相手」を削除し、「繰り返し、言い換えを交えて、ゆっくりはっきりと話してくれれば」とする。「自分の知っている相手」を削除するのは、Pre-A1, A1.1, A1.2と同様の理由による。
- A2.1 「基本的な情報を持っていることについて」は、文言が曖昧なので、全体に修正し、「基本的な情報を持っていることについて、絵などの補助があれば、話の大筋を伝え、それについて簡単な意見交換することができる。」を「絵やものなどの補助があれば、基本的な情報を伝え、それについて簡単な意見交換することができる。」とする。

【発表】

- Pre-A1 「単純な字句を並べて」は削除する。
- B2.1および B2.2に「聴衆の前で」という表現があったが、「プレゼンテーション」は聴衆の前で行うことが前提なので、これを削除する。

【書くこと】

- Pre-A1 「短い単語であれば」は削除する。1文字ずつの書き取りなので、単語の長い短いほとんど関係ないと思われるため。
- A1.1 「身近な単語・表現・文を用いて、」は削除する。
- A1.2 「最もよく使われる表現」は「平易な語や基礎的な表現」とする。
- A2.1 「お知らせ(行事の案内や招待状など)や私的な手紙、メモ、メッセージ」は、「行事の案内」がわかりづらいため、「招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなど」とする。
- B1.2 「自分の意見や考えを含めて」は、「意見」と「考え」を書き分ける意味がないため、「自分の意見を含めて」とする。
- B1.2 「物事や行動の順序に従って」は、「行動の順序」がわかりづらいため、単に「物事の順序に従って」とする。

【全体】

- 英語版で *simple words* としたところは「簡単な語」とする。「平易な」ではなく「簡単な」、「単語」ではなく「語」で統一する。
- 語句や文型などを修飾する *basic* に当たる部分は、「基本的」ではなく「基礎的」で統一する。

- ・ 英語版で **topic** としたところは、「話題」ではなく「トピック」で統一する。

これらの修正の結果を受けての CEFR-J β 版を付録に収録する(この β 版は本稿執筆の時点でも日々修正が行われている。本稿では2010年10月11日付けのものを参考までに収録するが、これが最終版ではないので、利用に当たっては充分注意されたい)。

3. CEFR-J β 版作成における課題

CEFR-Jらしさとは何か。言い換えれば、CEFRの枠組みがすでに存在するにもかかわらず、CEFR-Jを作成することの意義は何か。こうした問いに対する第一の答えは、Pre-A1の設定であろう。非ローマ字圏である日本における英語学習ではまず文字の習得に絡んだ学習段階があり、これに関わる **descriptors** は CEFR には存在しない。次に、CEFR-Jにおける、A1レベルの3分割、A2・B1・B2レベルの2分割が挙げられる。もともとの CEFR は6段階のレベル分けがなされているが、CEFR-J では A と B のレベルにおいて、下位分類を行っている。それぞれの言語教育の文脈の中でこの下位分類を行うこと自体は、CEFR において言及されているが、日本においてどのような下位分類が必要であるかは、当然のことながら言及されていない。したがって、この下位分類自体およびそれぞれのレベルに含まれる **descriptors** は CEFR-Jらしさと言えるだろう。

ただし、独自のレベル設定を行った場合、従来存在しない **descriptors** を新たに作成することになるが、これらは何を根拠に作成するかが問題となる。投野科研では、日本独自に作ったレベルに対応する **descriptors** は、先行する GTEC for STUDENTS や英検、SELHi 校などの **can-do statements** を参照しつつ、日本の英語教育の現場での活動や教科書などの教材を考慮して、作成してきている。

CEFR-J の開発に当たり次に考えなければならないのは、CEFR-J は日本版の **Common Reference Levels: self-assessment grid** を目指すのか、日本版の **ELP** を目指すのかである。この点については、この枠組みを見てもらった Green 博士からも、Cambridge 大学 **ESOL examinations** の Neil Jones 博士からも、同様の指摘を得ている。つまり、その開発の目的を問われたのであった。この目的によって **descriptors** の記述は全くといっていいほど変わってくる。前者であれば、CEFR のように各技能の各レベルには1つか2つの **descriptors** が来るだけでいいが、ELP であれば、数的にはいくらあってもよいだろう。また、質的にも、前者は代表性の高い **descriptors** を選択することになり、後者は例示的に幅広く多種多様なものを入れることになる。現状は、各技能の各レベルに2つずつの **descriptors** を入れており、日本版の **Common Reference Levels: self-assessment grid** を目指していると言える。

しかし、これを見てわかるように、現状の CEFR-J はもとなつた CEFR と同様、記述スタイルは成人学習者向きであり、初等・中等学校の生徒が理解できるものではないだろう (Little, 2005. また、これに関しては、Green 博士及び Jones 博士も同様の指摘をしている)。今後、これをもとに **ELP** を作成するのであれば、記述のスタイルを変更するとともに、**descriptors** の数も増やしていく必要がある。

今後の課題としては、次のような点が考えられるであろう。まず、各技能の **descriptors**

を見た場合に、一貫した原則に従っているか確認する必要がある。また、教室内 can-do と実生活 can-do のどちらを選択するのか、ゆれがあるように思われるが、これについても一貫したものとするかどうかを議論する必要がある。Jones 博士は、「前もって発話することを用意した上で」や「辞書を使えば」などの条件をつけたことにより、教室内 can-do ということを明示しているが、A2からB1の中には、この辺が曖昧なものがあるとしている。Brian North によれば(個人談)、CEFR の descriptors の開発に当たっては、結果的には教室内 can-do は残らなかったという。一方、これに対して、Jones 博士は自身の日本での英語指導経験を鑑み、言語学習の目的をこのような action-oriented terms によって子どもたちに理解させることは、容易でないと指摘している。現状では、CEFR-J には教室内 can-do もある程度含まれていると考えられるが、今後この点に対してどのような方針で臨むか議論する必要がある。

最後に、投野科研での検証作業が終了し、English Profile Program などの関連研究がある程度の研究成果を生み出した暁には、言語(英語)に踏み込んだ基準特性(criterial features)の記述を取り入れるかどうかを考える必要がある。CEFR は特定の言語に関する記述のない枠組みであるが、本科研では CEFR-J を「英語」の枠組みとして用いており、英語に関する基準特性に踏み込んで記述していくことは、必要かつ意味のある作業と考えられる。さらに、検証作業の過程で出てくるはずの、各レベルの参照例(「やりとり」であれば、「やりとり」の実例、「読むこと」であれば、「テキスト」の実例とタスクなど)はベンチマークとなり、日本の英語教育の目標や評価基準の策定、教員養成などに大きく資するものと考えられる。そして、次のステージでは、Little(2005)の言うように、CEFR-J に基づいた ELP の作成が必要ということになる。こうして作成される ELP は、教室での授業のための基本的なツールとなり、これにより学習者と教師がともに学習のプロセスをたどることが可能となるのであろう。

参考文献

- Council of Europe. (2001). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.[吉島茂・大橋理枝(訳) 2004. 『外国語教育 II 外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社.]
- Little, D. (2005). The *Common European Framework of Reference for Languages* and the European Language Portfolio: Involving learners and their judgements in the assessment process. *Language Testing*, 22, 321-336.
- Negishi, M. (2006). How much do we have in common with the Common European Framework of Reference?— The applicability of the CEFR to an IRT-based English proficiency test in Japan? In A. Yoshitomi, T. Umino, & M. Negishi (Eds.), *Readings in Second Language Pedagogy and Second Language Acquisition: In Japanese Context* (pp. 83-100). Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
- 根岸雅史 2006. 「CEFR の日本人外国語学習者への適用可能性の向上に向けて」『言語情報学研究報告14 第二言語習得理論に基づく言語教育と評価モデル』根岸雅史・海野多絵・

吉富朝子(編) pp. 79-101.

根岸雅史・村野井仁・投野由紀夫・高田智子 2010, 8月. 「CEFRを英語教育評価の枠組みとして考える」 根岸雅史(コーディネーター), 全国英語教育学会大阪大会課題研究フォーラムB(1年目, 関東甲信越英語教育学会), 大阪, 関西大学にて開催.

付録

付録1 CEFR-J β版(日本語) pp. 47-49

付録2 CEFR-J β版(英語) pp. 50-52

*付録1, 2の CEFR-J β版は最終版ではなく, あくまで2010年10月11日時点における草案段階の資料.

付録1 CEFR-J β版(日本語)

Pre-A1	A1.1	A1.2	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3
聞くこと	A1.1	A1.2	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3
読むこと	A1.1	A1.2	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3
やりとり	A1.1	A1.2	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3
発表	A1.1	A1.2	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3
書くこと	A1.1	A1.2	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3	A1.3

付録1(続き) CEFR-J β版(日本語)

A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	
<p>ゆつくりはつきりと話されている、公衆の乗り物や駅や空港の短い簡易なアナウンスを聞き取ることができ、簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの短文を理解することができる。</p>	<p>ゆつくりはつきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。</p>	<p>ゆつくりはつきりと話されれば、スピーチ・料理などの一連の行動に関する指示や通じやすい指示を理解することができる。</p>	<p>標準的な速さの録音や放送(天気予報や空港のアナウンスなど)を聞いて、自分の関心のある部分的な内容を聞き取ることができる。</p>	<p>はつきりとした声のある録音で話されれば、自分の関心のある部分の要点を理解することができる。</p>
<p>読むこと</p>	<p>簡単な語を用いて書かれた物語や伝記などを理解することができる。</p>	<p>学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。</p>	<p>インターネットや参考図書などを調べて、文章の構成を意識しながら、学業や仕事に関連する情報を手に入れることができる。必要であれば辞書を用いて、言葉と関連づけることができる。</p>	<p>簡単な英語で書かれた物語文を、語注や辞書を用いれば読み取ることができる。</p>
<p>やりとり</p>	<p>簡単な英語で、ゆつくりはつきりと話されれば、意見や気持ちややりとりについて簡単な意見交換することができる。</p>	<p>身近なトピック(学校・趣味・将来の希望)について、簡単な英語で話されれば、自分の意見を表明し、情報を交換することができる。</p>	<p>病院や市役所といった場面で、詳細にまた自信を持って、問題を説明することができる。関心のある詳細な情報を提供し、その結果として正しい処置を受けられる。</p>	<p>駅や店などの一般的な場面で、簡単な英語で書かれた切符の購入などについて、簡単な英語で話された指示や質問を理解することができる。相手と協力して、正しいやりとりをおこなうことができる。</p>
<p>発表</p>	<p>前もって発話することを意識した上で、写真や絵、地図などの視覚的補助を利用して、一連の簡単な文や句や文を使って、身近なトピック(学校や地域など)について短い話をすることができる。</p>	<p>前もって発話することを意識した上で、自分の経験や知識を基に、一連の簡単な文や句や文を使って、ある程度詳しく話することができる。</p>	<p>自分の考えを事前に準備して、メモの助けを借りて、聞き手が混乱させないようトピックや自分の関心のある事柄について話ることができる。</p>	<p>自分の関心事であれば、社会の状況(ただし自分の関心事)について、自分の意見を加え、ある程度詳しく話することができる。相手と協力して、正しいやりとりをおこなうことができる。</p>
<p>書くこと</p>	<p>文と文をand, but, becauseなどの簡単な接続詞でつなげるような書き方であれば、基礎的・具体的な語彙、簡単な文や文を使って、日記や写真、事物の説明文などのまとまりのある文章を書くことができる。</p>	<p>自分の関心事や状況などについて、専門的でない語彙や複雑でない文法構造を含めて、自分の意見を含め、あらかじめまとめた基本的な内容を報告したりすることができる。</p>	<p>新聞記事や映画などについて、専門的でない語彙や複雑でない文法構造を含めて、自分の意見を含め、あらかじめまとめた基本的な内容を報告したりすることができる。</p>	<p>物事の順序に従って、旅行記や自分史、身近なイベントなどの物語文を、いくつかのパートに分けて書くことができる。また、近況を詳しく伝える個人的な手紙を書くことができる。</p>

付録1(続き) CEFR-J β 版(日本語)

	B2.1	B2.2	C1	C2
聞くこと	標準的な速さの複雑英語で話される。母語話者同士の会話(テレビ、映画など)の要点を理解できる。	トピックが身近であれば、長い話や複雑な議論の流れを理解できる。	自然な速さの標準的な英語で話される。社会的なトピックや専門的なトピックについて、話し手の意図を理解できる。	C2 生であれ、放送されたものであれ、母語話者の速いスピードの発話でも、話し方の癖に慣れる時間的余裕があれば、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。
読むこと	現代の問題など一般的な関心の高いトピックを扱った文章を、辞書を使わずに読み、複数の視点の相違点や共通点を比較しながら読むことができる。	難しい部分を読み返すことができ、自分の専門分野の報告書・仕様書・操作マニュアルなどを、詳細に理解することができる。	自分の専門分野の論文や資料から、辞書を使わずに、必要な情報や論点を読み取ることができる。	抽象的で、構造的にも言語的にも複雑な文章、例えばマニユール・専門の記事・文学作品の注釈など、事実上あらゆる形式で書かれた英文を容易に読むことができる。
やりとり	なじみのあるトピックについて、読んだり聞いたりしたこと、要点について議論することができる。	母語話者同士の議論に加われないこともあるが、自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲内トピックなら、抽象的なトピックであっても、議論できる。	幅広い慣用語表現を使って、雑誌記事に対して意見を交換することができる。	いかなる会話や議論でも無理なくこなすことができる。慣用語表現、口語表現をよく知っている。自分の流暢に表現し、細かい意味のニュアンスを正確に伝えることができる。表現上の困難に出会っても、周りの人に気づかれないように修正し、うまく構うことができる。
発表	ある視点に賛成または反対の理由や代替案などを挙げて、事前用意されたプレゼンテーションを流暢に行うことができ、一連の質問にもある程度流暢に対応することができる。	ディベートなどで、そのトピックが関心の分野のものであれば、論点を並べ自分の主張を明確に述べることができる。	ディベートなどで、社会問題や時事問題に関して、補助的観点や関連事項を詳細に加えることができ、自分の観点を明確に展開することができる。話を続けることができる。	状況に合った文体で、はっきりと流暢に記述・論述ができる。効果的な論理構成によって聞き手に重要な点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。
書くこと	自分の専門分野であれば、メールやファックス、ビジネス・レポートなどのビジネス文書を含め、情報の度合いのある適切な文体で、書くことができる。	自分の専門分野や関心のある事柄であれば、複雑な内容を含む報告書や論文などを、原因や結果、仮定的情況も考慮しつつ、明確かつ詳細な文章で書くことができる。	感情や体線の微妙なニュアンスを表現するだけでなく、重要な点や補足事項の詳細を適切に強調しつつ、筋道を結実性の高いエッセイ、レポートなどを、幅広い語彙や複雑な文構造を用いて、書くことができる。	明瞭で流暢な文章を適切な文体で書くことができる。効果的な論理構造で事柄を説明し、その重要な点を読み手に気づかせ、記憶にとどめさせるよう、複雑な手紙、レポート、記事を書くことができる。仕事や文学作品の概要や評論を書くことができる。

付録2 CEFR-J β 版 (英語)

	Pre-A1	A1.1	A1.2	A1.3	
Listening	I can catch everyday, familiar words, provided they are delivered clearly and slowly.	I can understand short, simple instructions, provided they are delivered face-to-face, slowly and clearly.	I can catch key information necessary for everyday life such as numbers, prices, dates, days of the week, provided they are delivered slowly and clearly.	I can understand short conversations or presentations about familiar topics (e.g. hobbies, sports, club activities), provided they are delivered in slow and clear speech involving rephrasing and repetition.	I can catch concrete information (e.g. places and times) on familiar topics encountered in everyday life, provided it is delivered in slow and clear speech involving rephrasing and repetition.
Reading	I can understand words in a picture book that are already familiar through oral activities, and point to the objects in the picture.	I can understand very short, simple, everyday expressions, if I can reread them and get some help from the instructor, as necessary.	I can understand simple words and phrases or short sentences in signs and posters I come across in everyday life.	I can understand very short reports of recent events such as simple letters, postcards or e-mails from friends or relatives describing travel memories, etc.	I can understand narratives written in simple words, supported by illustrations and pictures.
Spoken Interaction	I can express my wishes and make requests in areas of immediate need, using basic phrases. I can express what I want by pointing at it, if necessary.	I can use common, formulaic, daily and seasonal greetings, and respond to those greetings.	I can ask and answer about personal topics (e.g. family, daily routines, hobby) using mostly familiar expressions and some basic sentences (although these are not necessarily accurate).	I can exchange simple opinions about familiar topics (e.g. sports, food, likes and dislikes), using a limited repertoire of expressions, provided the other person speaks clearly.	I can ask and answer simple questions about very familiar topics (e.g. hobbies, sports, club activities), provided that people speak slowly and clearly with some repetition and rephrasing.
Spoken Production	I can convey very limited information about myself (e.g. name and age), using simple words and basic phrases.	I can convey personal information (e.g. about my family and hobbies), using basic phrases and formulaic expressions.	I can express simple opinions related to limited, familiar topics, using simple words and basic phrases in a restricted range of sentence structures.	I can give simple descriptions e.g. of everyday object, using simple words and basic phrases in a restricted range of sentence structures.	I can describe simple facts related to everyday life with a series of sentences, using simple words and basic phrases in a restricted range of sentence structures.
Writing	I can write upper- and lower-case letters and words in block letters.	I can fill in forms with such items as name, address, and occupation.	I can write short phrases and sentences giving basic information about myself (e.g. name, address, family) with the use of a dictionary.	I can write simple postcards, messages, short memos about events of personal relevance, using simple words and basic expressions.	I can write a series of sentences about my hobbies and likes and dislikes, using simple words and basic expressions.

付録2(続き) CEFR-J β版(英語)

	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
Listening	I can understand short, simple announcements e.g. on public transport or in stations or airports, provided they are delivered slowly and clearly.	I can understand phrases and expressions related to matters of immediate relevance to me or my family, school, neighborhood etc. provided they are delivered slowly and clearly.	I can understand instructions and explanations necessary for simple transactions (e.g. shopping and eating out), provided they are delivered slowly and clearly.	I can understand and follow a series of instructions for, sports, cooking, etc. provided they are delivered slowly and clearly.	I can understand the main points of factual messages (e.g. a school assignment, a travel itinerary), provided speech is clearly articulated in a familiar accent.	I can understand the majority of the concrete information content of recorded or broadcast audio material (e.g. weather forecast and airport announcement) on topics of personal interest spoken at normal speed.
Reading	I can understand explanatory texts describing people, places, everyday life, and culture, etc. written in simple words.	I can understand narratives and biographies written in simple words.	I can find the information I need, from practical, concrete, predictable texts (e.g. travel guidebooks, recipes), provided they are written in simple English.	I can understand the main points of texts dealing with everyday topics (e.g. life, hobbies, sports) and obtain the information I need.	I can understand clearly written instructions (e.g. for playing games, for filling in a form, for assembling things).	I can follow the plot of narratives written in plain English, provided I can consult the glossary or a dictionary.
Spoken Interaction	I can give directions including simple sequences such as <i>first, then, and next</i> .	I can get across basic information and exchange simple opinions, using pictures or objects to help me.	I can exchange opinions and feelings, and express agreement and disagreement, provided I am spoken to slowly and clearly in simple English.	I can interact in predictable everyday situations (e.g. a post office, a station, a shop), using a wide range of simple words and expressions.	I can maintain a social conversation about concrete topics of personal interest, using a wide range of simple English.	I can explain with confidence a problem which has arisen in familiar places such as a station or a shop (e.g. purchasing the wrong ticket) and obtain the right product or service by requesting politely and expressing gratitude (assuming that the provider of the service is cooperative).
Spoken Production	I can give a brief speech, introducing myself, using a series of simple phrases and sentences, provided I can prepare my speech in advance and refer to my notes.	I can give a brief talk about familiar topics (e.g. my school and my neighborhood) supported by visual aids such as photos, pictures, and maps, using a series of simple phrases and sentences, provided I can prepare my speech in advance.	I can make a short speech on topics directly related to my everyday life (e.g. myself, my school, my neighborhood) with the use of visual aids such as photos, pictures, and maps, using a series of simple words and phrases and sentences, provided I can prepare my speech in advance.	I can give an opinion, or explain a plan of action concisely giving some reasons, using a series of simple words and phrases and sentences, provided I can prepare my speech in advance and use brief notes to help me.	I can talk about familiar topics and other topics of personal interest, without causing confusion to the listeners, provided I can prepare my ideas in advance and use brief notes to help me.	I can give a reasonably smooth presentation about social situations of personal interest, adding my own opinions, and I can take a series of follow up questions from the audience, responding in a way that they can understand.
Writing	I can write invitations, personal letters, memos, in messages, in simple English, provided they are about routine, personal matters.	I can write texts of some length (e.g. diary entries, explanations of photos and events) in simple English, using basic, concrete vocabulary and simple phrases and sentences, linking sentences with simple connectives like <i>and, but, and because</i> .	I can write a simple description about events of my immediate environment, hobby, places, and work, provided they are in the field of my personal experience and of my immediate need.	I can write my impressions and opinions briefly about what I have listened to and read (e.g. explanations about lifestyles and culture, stories), using basic everyday vocabulary and expressions.	I can write coherent instructions telling people how to do things, with vocabulary and grammar of immediate relevance, everyday vocabulary and grammar.	I can write narratives (e.g. travel diaries, personal histories, personal anecdotes) in several paragraphs, following the order of events. I can write personal letters which report recent events in some detail.

付録2(続き) CEFR-J β版(英語)

	B2.1	B2.2	C1	C2
Listening	I can understand the main points of a conversation between native speakers in television programmes and in films, provided they are delivered at normal speed and in standard English.	I can follow extended speech and complex lines of argument provided the topic is reasonably familiar.	I can understand the speaker's point of view about topics of current common interest and in specialised fields, provided it is delivered at a natural speed and articulated in standard English.	I have no difficulty in understanding any kind of spoken language, whether live or broadcast, even when delivered at fast native speed, provided I have some time to get familiar with the accent.
Reading	I can read texts dealing with topics of general interest, such as current affairs, without consulting a dictionary, and can compare differences and similarities between multiple points of view.	I can understand in detail specifications, instruction manuals, or reports written for my own field of work, provided I can reread difficult sections.	I can extract necessary information and the points of the argument from articles and reference materials in my specialised field without consulting a dictionary.	I can read with ease virtually all forms of the written language, including abstract, structurally or linguistically complex texts such as manuals, specialised articles and literary works.
Spoken Interaction	I can discuss the main points of what I have read and listened to, provided the topic is familiar to me.	I can discuss abstract topics, provided they are within my terms of knowledge, my interests, and my experience, although I sometimes cannot contribute to discussions between native speakers.	I can exchange opinions about magazine articles using a wide range of colloquial expressions.	I can take part effortlessly in any conversation or discussion and have a good familiarity with idiomatic expressions and colloquialisms. I can express myself fluently and convey finer shades of meaning precisely. If I do have a problem I can backtrack and restructure around the difficulty so smoothly that other people are hardly aware of it.
Spoken Production	I can give a prepared presentation with reasonable fluency, stating reasons for agreement or disagreement or alternative proposals, and can answer a series of questions.	I can give a fluent presentation, focusing on both the main points and related details. I can depart spontaneously from a prepared text and follow up interesting points raised by members of the audience, often showing remarkable fluency and ease of expression.	I can express myself fluently and spontaneously without much obvious searching for expressions. I can use language flexibly and effectively for social and professional purposes. I can formulate ideas and opinions with precision and relate my contribution skilfully to those of other speakers.	I can present a clear, smoothly flowing description or argument, in a style appropriate to the context and with an effective logical structure which helps the recipient to notice and remember significant points.
Writing	I can write business documents (e.g. e-mail, fax, business letters), conveying degrees of emotion, in a style appropriate to the purpose, provided they are in my professional field.	I can write reasonably coherent essays and reports using a wide range of vocabulary and complex sentence structures; synthesising information and arguments from a number of sources, provided I know something about the topics.	I can write clear, coherent essays and reports with a wide repertoire of vocabulary and complex sentence structures; emphasizing important points, integrating sub-themes, and constructing a chain of argument, as long as I do not need to express subtle nuances of feelings and experience.	I can write clear, smoothly flowing text in an appropriate style. I can write complex letters, reports or articles which present a case with an effective logical structure which helps the recipient to notice and remember significant points. I can write summaries and reviews of professional or literary works.